**「教育環境のあり方検討委員会」のまとめ**

近年、少子高齢時代を迎え、特に少子化の進行を背景に平成２９年３月定例議会の冒頭あいさつの中で、当町でも「少子・人口減少に対応した新たな教育環境づくり」に着手する考えを明らかにし、平成２９年８月から検討委員会を立ち上げて、検討を進めて参りました。

まずは、誰のために活力ある教育環境づくりを行うのか…、この視点が今回の検討委員会の基本でありました。それはスチューデント・ファースト（学習者本位）、即ち学校・保育園は学習者である子どもたちための存在であり、この考え方を優先というものであります。

　その上で活力ある学校・保育園づくりの方向性の柱として、一つは適正な集団で学び合える環境を子どもたちに保障する。もう一つは、この学校・保育園で学んでよかったと実感できる、ここでしか学べない地域に根差した魅力ある学校・保育園づくりを進める。

　この検討会の構成メンバーとして、町内の保育園（３園）・小学校（４校）・中学校（２校）の保護者代表、各４地区の代表者、小中学校教職員代表者、教育委員代表の計１７名の任意のメンバーで発足し、互選で委員長に田島英征さん、副委員長に森元真歩さんにお願いしました。

**＜教育環境のあり方検討委員会の経過と内容＞**

第１回を平成２９年８月２３日に行い、委員委嘱・顔合わせと趣旨説明、今後のスケジュールについて確認しました。質疑応答。

第２回は県教育委員会、南信教育事務所から講師の先生をお招きしての学習会を行い、小規模校・少人数学級・複式学級（小学校・中学校）におけるメリット・デメリットについて、小中一貫校について、統合に関する基本的な考え（効果・課題等）、当会運営の進め方等について、質疑応答を含めての学習をしました。

第３回は学校現場から聞く場を設定、町内の小中学校における小規模校・少人数学級の現状について町内６校の小中学校長から話を聞き、質疑応答の中で現状を把握・理解し、学習をしました。

　　また１１／１７に「南部地区教育委員・社会教育委員・公民館等研修会」で行われた現況の南部地区教育環境についての意見交換、グループ別討議の資料を基に意見交換を行う。

第４回は前回の学習会や現状把握をもとに、選出母体の４つのグループ「保育園G 」「小学校G」「中学校G」「地区G」に分かれて意見交換・討議を行いました。会の最後にリーダーの方から会のまとめを発表していただきました。

第５回は各地区の４つのグループ「富草G」「大下条G」「和合G」「新野G」に分かれて前回のように意見交換・討議を行いました。会の最後にリーダーの方から会のまとめを発表していただきました。

第６回は今までの５回の検討委員会をもとにメンバーをミックスして２つのグループに分かれてフリートーキングを行いました。出された意見をリーダーがまとめて発表していただき、出された意見に対して質疑応答を行いました。

第７回は委員の皆さんからある程度意見が出し尽くしたと言う意見が多く出されたため、まとめの方向で進めました。まとめる手法の一つとして、K.J.法（川喜田二郎）を採用して、演習を行い、まとめてみました。

今回は保育園・小学校について考え、まとめ、一つの方向性を出しました。　K.J.法については、内容等別紙の通りです。

第８回は、前回と同じK.J.法を採用して、中学校についても意見のまとめ、方向性を出しました。

また、適正規模の統合中学校を設立するためのメリット、デメリットについてK.J.法を採用して洗い出し確認を行いました。K.J.法については、内容等別紙の通りです。

第９回は町長に提出する別紙の答申について検討してまとめました。

　　答申については以下の通りです。

**答　　申**

**阿南町長　勝野　一成　様**

**平成２９年８月２３日に諮問がありました、阿南町の教育環境のあり方について、以下の通り答申いたします。**

**★　保育園においては、地域に存在する意義を大事にしながら、多くの異年齢の子どもたちの交流を計画的に行い、施設・運営面と保育士・保育内容の充実を図り、現状の保育環境を維持・拡充していくことが必要と考える。**

**★　小学校においては、地域の拠り所として、保護者・地域・学校間の交流・連携を図りながら、現状の教育環境を維持していく。また、時代の要請に答えながら、情報機器をフルに活用し、個性尊重・ふるさとを愛する教育を積極的に行う必要があると考える。**

**★　中学校においては、心身ともに大きく成長し、人とのかかわりを外に求め、人間関係を学ぶ大切な時期であることを考慮すると、適正規模の生徒数の中で、切磋琢磨しながら学習・活動ができる教育環境を設定し、整えていく必要がある。物理的・地域との関わりなど課題はあるものの、阿南町の中学校を早急に一つに統合すべきと考える。**

**★　南部地区の統合中学校については、引き続き各村と検討し、適正規模の中学校を目指すことが必要と考える。**

**平成３０年１２月２８日**

**教育環境のあり方検討委員会　委員長　田島　英征**

☆阿南町では「統合中学校」、南部地区では「新たな学校」の方向で答申していくが、検討委員会の答申や考え方の公表・周知、パブリックコメントを受けながら、各方面（保護者・PTA・地域等）に下して説明し、ご理解とご協力をお願いしていくことで確認する。

　　**＜タイムスケジュール（案）＞**

平成３１年１月

　＊「答申」を検討委員会でまとめ、町長に提出し、町長から発表をいただき、ご理解とご協力を得る。

平成３１年２月

＊パブリックコメントを受けながら、地域への説明会を行ってご理解とご協力を得る。

平成３１年３月　＊３月議会へ報告する。

平成３１年４月　＊阿南町**「統合中学校」**に向けての準備委員会への組織づくりに着手する。

８月　＊準備委員会を設立し、細部の検討に入る。

平成３３年４月　＊阿南町**「統合中学校」**の開校

平成３５年４月　＊南部地区**「新たな中学校」**の開校